

事故防止のポイント

帰省先や親族宅など自宅とは異なる住まいでは、使い慣れない製品や異なる環境での危険性が保護者にとって認識しづらくなる一方、子供は好奇心が旺盛で見慣れない製品に興味を持つことがあるため、普段以上に注意が必要です。子供の危険を未然に防ぐため、住人の理解や協力を得るなどして安全対策を行いましょう。

- ◎目を離さない、一人にしない。
- ◎危険なものに子供の手が届かないようにする。
滞在中は、子供の発育段階に合わせて危険なものを片づけたり、移動させる。
- ◎少し大きな子供であれば、危険な製品や行為を伝える。
- ◎可能であれば、安全な環境を作る。

- 移動防止柵を使用して、階段・台所・玄関などに行かせないようにしたり、ヒーター等を安全柵で囲うなど、危険な場所や製品に近づけない、触れさせないための工夫をする。
- テーブルの角にクッション材などをつけ、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をする。
- 滑りにくい素材やマットなどを使用して、風呂場など滑りやすい場所での転倒防止の工夫をする。

※これらの製品を使用する際は、取扱説明書等で対象年齢や使用方法をよく確認しましょう。



帰省先などの自宅とは異なる住まいでの乳幼児の事故防止ガイド

ヒヤリ・ハットレポート No.16

東京都では「帰省先などの自宅とは異なる住まいでの乳幼児の危険」に関するヒヤリ・ハット体験を掘り起こすためにインターネットアンケート調査を行いました。

このガイドは、調査結果に基づき、帰省先などの自宅とは異なる住まいにおいて、使い慣れない製品や異なる環境で使用した製品などによる乳幼児のヒヤリ・ハット体験や危害・危険を防止するためのポイントをまとめたものです。



玄関や階段で!

自宅の階段より少しだが高さがあり、足が引っかかって転びそうになった。(1歳・女兒)

自宅はマンションで階段がないが、実家は一軒家で階段がある。子供が階段が好きでのぼりたがり、目を離したときに一人でのぼって数段上から落ちてしまった。(2歳・男児)

靴下で滑って転倒した。(2歳・男児)

自宅の玄関は引き戸だが、実家の玄関は蝶番で開閉する扉で、強風にあおられドアに手をはさまれそうになった。(2歳・男児)

玄関の上がり口が自宅と違い高いので、座って靴を取ろうとしたらそのまま前のめりに転がってしまった。(2歳・女兒)

玄関にあるたくさんの大きな靴につまずいて転んだ。(2歳・女兒)

※このガイドにおける「乳幼児」とは、0歳～6歳の未就学児をいいます。

帰省先などでの相談先を確認しておきましょう。

全国のこども医療相談

こども医療でんわ相談 #8000

休日・夜間の子供の症状にどのように対処したら良いのか、病院を受診した方が良いのかなど判断に迷ったときに、全国共通の番号で各都道府県の相談窓口へ自動転送され、小児科医師・看護師から適切な対応の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。

※ダイヤル回線の番号及び実施時間は各都道府県により異なります。
厚生労働省ウェブサイト<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>

都内の救急医療相談

東京消防庁救急相談センター #7119

(プッシュ回線・携帯電話)

ダイヤル回線やつながらない場合は、**23区:03-3212-2323 多摩地区:042-521-2323**

急な病気やケガをした場合に、「今すぐ病院へ行くべきか?」、「救急車を呼ぶべきか?」など迷ったときは「東京消防庁救急相談センター」へ相談しましょう。

消費生活相談

消費者ホットライン

(局番なし)188

消費者ホットラインは、全国共通の電話番号で、地方公共団体が設置している身近な消費生活相談窓口をご案内しています。

東京都消費生活総合センター

消費生活相談 03-3235-1155

事故にあったとき、商品・サービスに原因があると思われる場合には、消費生活センター等の機関に申し出ましょう。

インターネットアンケート調査概要

調査対象:東京都又は近県に居住し、帰省先などの自宅とは異なる親族の住まいがある0歳～6歳(未就学児)の子供を持つ20歳以上の保護者3,000人
調査時期:平成31年1月

「東京くらしWEB」ヒヤリ・ハット調査

<https://www.shouhiseikat.metro.tokyo.jp/anzen/hiyarihat/>



乳幼児の事故防止ガイド

乳幼児の「寝ているとき」「家庭内の水回り」などの事故防止ガイドもWEBでご覧いただけます。



Twitter



@tocho_shouhi

Facebook



@tocho.shouhi

ぜひフォローしてください。

使い慣れない製品や異なる環境でこんな危険が!

リビングやダイニングで!

自宅はIHのコンロだが、見慣れない炎が気になったようで、大人が火力調節つまみを左右に動かしているのを見て真似して動かした。(3歳・女兒)

自宅はカウンターキッチンで入口に仕切りを置き子供が入れないようにしているが、祖父母宅はリビングからキッチンへ移動できるため、包丁を触りそうになった。(2歳・女兒)

自宅では卓上で鍋をすることは無いが、実家で皆で電気鍋を囲んで食べていたときに、鍋のふちに触ってやけどしそうになった。(2歳・女兒)

自宅では吹出口にガードをつけたり囲いを使用しているが、石油ファンヒーターにガードがなかったため、吹出口を触ってしまった。(1歳・男児)

自宅では手の届かないところにはさみを置いているが、祖父母の家では手の届くところにあり、気づいたら子供が持っていた。(1歳・男児)

自宅のソファは壁につけて置かれているが、ソファの後ろにスペースがあり、背もたれに座って落ちた。(5歳・女兒)

リビングの扉が、自宅にはないスライド式の扉で、自分で開けて指が巻き込まれ、はさまった。(2歳・男児)

祖父が飲み忘れないように机の上に置いていた薬に子供の手が届きそうだった。(2歳・女兒)

喜んで走りまわっているとき、ガラス製のリビングテーブルの角でおでこをぶつけそうになった。テーブルの角は特にガードされておらずとがっているため、ぶつけていたら流血していたと思う。(1歳・女兒)

低いテーブルの上に電気ケトルが置いてあり、その周辺を通る際にコードに引っかかったが、コンセントが抜けて大事には至らなかった。(3歳・男児)

そのほかにも...



自宅には浴室に転倒防止マットがあるが、祖父母宅にはなく、滑りやすいタイルで転倒して後頭部をぶつけた。(1歳・女兒)



祖母のベッドで寝返りを打って転落し、頭を強打した。自宅にはベッドガードとベッド下のマットがあるが、祖父母宅にはなかったため危なかった。(4歳・女兒)



バックしてきた他の車に気づかず、飛び出しそうになった。(3歳・男児)

- 家にはない仏壇の線香の火を触りそうになったり、近くに置いてあったライターを手に取ったりした。(1歳・男児)
- 扇風機にカバーがつけられていなかったため、隙間から指を入れそうになったが、気がついてとめたため大事には至らなかった。(2歳・女兒)
- 実家の湯船が深く、肩まで浸かろうとしたときに、いつもと深さが違うことに驚き慌てたため、湯を飲んでしまった。自宅では湯船には段差があり、上の段に子供を座らせていた。(2歳・男児)
- 昔ながらの水と湯をひねって湯温を調節するシャワーで、熱湯のような湯が出て大泣きした。(2歳・男児)

- 普段、布団で寝ているのでベッドから落ちた。(1歳・男児)
- 重い毛布をかけていて、寝返りを打てず泣き出した。(0歳・女兒)
- マンションの高層部で、普段とは違う景色を見ながら、ベランダに出たら落ちそうになった。(3歳・男児)
- 庭で遊んでいた際、ちょっと目を離したときに、子供が大人用自転車のペダルに足をかけ遊んでおり、そのまま自転車が倒れて下敷きになった。(6歳・男児)